

令和4年度 県立太田西山高等学校自己評価表

目指す 学校像	1 人間力を高め、将来の夢を実現する学校			
	2 知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健全な人格の完成を目指す学校			
	3 自ら学び続ける力の育成を目指す学校			
	4 地域に愛され、信頼される学校			
昨年度の成果と課題		重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況
76%の生徒が、各教科の学習指導に関して様々な工夫がなされている、80%の生徒が、授業はわかりやすい、66%の生徒が家庭学習を行い、授業に前向きな態度で取り組んでいる。しかし、44%の生徒は家庭学習の時間や内容が不十分と感じている。基礎学力の定着から応用力の育成と、家庭学習習慣の定着を図るため、ICTを効果的に活用するなど、わかりやすい授業を展開する必要がある。		1 探究活動等による生徒の資質・能力の向上	・生徒の実態に即した授業の展開を通して、基礎的知識及び技能の向上と学習意欲の喚起に努める。 ①アクティブ・ラーニングによる主体的な学びに向かう力を育成するための授業改善 ②基礎的な知識および技能の定着と、探究活動による思考・判断・表現する力の育成 ③ICT教育推進委員会を中心とした、授業におけるICTの活用や家庭学習の定着	B
78%の保護者は、本校の進路指導が充実していると感じており、83%の生徒は、将来の進路に関しての面談や指導が十分に行われていると感じている。個別指導の充実を図り、一人一人に応じたきめ細やかな進路指導を展開する必要がある。		2 キャリア教育の推進による、生徒一人一人に適した進路の実現	・個に応じたきめ細かな進路指導を充実するとともに、生涯にわたって充実した生活が送れるよう、生徒一人一人に適した進路の実現に努める。 ①ライフスキル教育を基盤として、コミュニケーション力を高める等の資質・能力を向上させてキャリア教育の充実を図る ②キャリアパスポートを活用し、自己分析や自己管理を深める ③多様な生徒の進路の実現に向けた情報の提供と組織的な進路指導	A
78%の保護者は、本校の進路指導が充実していると感じており、83%の生徒は、将来の進路に関しての面談や指導が十分に行われていると感じている。個別指導の充実を図り、一人一人に応じたきめ細やかな進路指導を展開する必要がある。		3 生徒指導の充実	・多様な生徒に対応した、個に応じた生徒指導と、問題行動の未然防止を重視した生徒指導により、生徒の自律から自立を育む。 ①問題行動の未然防止を重視した、学校内外における指導体制の確立 ②スピード感をもった問題行動への対応 ③全教職員による一体感をもった指導体制の確立	B
地域住民は、本校生のマナーや挨拶については75%が肯定的に捉えているが、25%近くの人あまりよくできてはいないと感じている。校内ではルールやマナーを守って生活ができていく状況ではあるが、多様な生徒に対応した、個別の継続的な指導・支援が必要な生徒が見られる。個別面談を充実させ、生徒の心に寄り添う指導体制の確立が必要である。		4 シティズンシップ教育の推進による主体的に社会の形成に参画する力の育成	・ライフスキル教育を通して、自主的・自律的な態度の育成に努める。また、特別活動を通して、集団の一員としての自覚と責任に基づく規範意識の高揚と、課題を見つけ他者と協力して解決する能力を育み、社会の形成に参画できる資質・能力を養う。 ①生徒の主体的・自主的なHR活動、生徒会活動、学校行事を支援する ②カウンセリングマインドを持って傾聴する個別面談や教育相談体制の充実 ③シティズンシップ教育により、自分たちの課題を話し合い、課題解決に向けた主体的な活動を支援する	B
定時退勤日と完全退勤時間を設定し、勤務時間を意識した業務の遂行と、ICTを活用した業務の効率化を図る必要がある。		5 地域、保護者との交流・連携による教育活動の充実	・地域の歴史や現状を学び、地域の人材を活用して、地域理解や地域の課題を探究する。また、地域に信頼される学校を目指して、地域や保護者の理解が得られるように努める。 ①保護者との緊密な連絡と連携 ②中学校訪問や説明会及びHP等による情報の収集と発信 ③地域の人材を活用して地域理解を深める	B
		6 働き方改革の推進	・勤務時間削減のため、業務の効率化と質の向上を目指す。 ①定時退勤日・完全退勤時間の設定と徹底 ②ICTを活用した業務の効率化（各種調査等のICT化）とICT教育の推進（反転学習や確認テストの配信） ③部活動における複数顧問体制の確立と部活動指導の負担軽減	B
「育成を目指す資質・能力				

「三つの方針」 (スクールポリシー)	に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	人間力を高め、地域を支え活躍する人材			
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育課程による、就職から大学進学までの進路希望実現			
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	主体的に学び続けることのできる生徒			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
国語科	分かりやすい授業のための工夫	①生徒の実態に即したワークシート・資料を活用する。	A	B	・生徒用タブレットを効果的に活用し、授業内や家庭学習で学力の定着を図る。 ・生徒が主体的・対話的に学習するための教材の研究や授業内容の改善。
		②生徒の学力に応じた発問をし、課題解決に向け考えさせる授業を展開する。	B		
		③言語活動や資料の提示の場面において、ICTを効果的に活用する。	B		
	基礎学力の定着と思考力の育成	①机間指導やノート点検を行い、学習状況を把握する。	A		
		②アクティブラーニングを積極的に導入し、生徒自身が考える時間や話し合う時間を設ける。	B		
		③小テスト等を実施し、漢字や語彙の理解度、定着度を確認する。	A		
地歴公民科	基礎学力の定着と向上	①教科書の内容をより精選し、生徒の学習意欲を引き出すような単元づくりを行う。	A	B	・学習内容の質の向上を目的とした精選。 ・主体性を重視した授業の実践。 ・生徒の興味関心を喚起するためのICT機器の活用。 ・キャリア教育との連携。
		②アクティブラーニングの手法を取り入れ、基礎知識の定着と思考・判断・表現力の向上を図る。	B		
	興味・関心を引き出す授業の展開	①電子黒板等のICT機器や資料集を活用した導入や発問を研究し、興味・関心を引き出す。	A		
		②グループフォーム等を効果的に活用することで、生徒の興味・関心を高めると同時に家庭学習が行いやすい環境づくりを進める。	B		
	自ら調べるためのスキルの習得	①インターネットをはじめ、さまざまな情報収集のメリット・デメリットを常に意識させるよう喚起を促す。	B		
		②個々の収集した情報を皆で共有できるようにすることで、知識の拡散や検証を促す場を提供する。	B		
数学科	分かる授業のための工夫	①授業プリントを作成し、問題演習に活用する。	A	B	・本校入学生徒の学力層低下に伴い、小中学校での既習事項の学び直しの充実(基本計算のドリル学習等)。 ・検定試験受検の奨励(3級までの小中学校の内容が範囲となる級を中心に)。※学び直しの充実の一環として
		②ペアワーク・グループワーク等、授業形態の工夫による生徒相互の学びあい及び探究活動の充実を図る。	A		
		③電子黒板やタブレット端末を活用し、各単元の視覚的な認識の充実及び深い学びの達成を目指す。	A		
	基礎学力の向上	①小テストや単元ごとのまとめプリントを活用し、学び直しの事項や日々の学習内容の定着を図る。	B		
		②検定試験や進路対策をはじめとした、生徒の進路希望に合わせた課外学習を計画的に実施し、数学的な力を伸ばす指導を徹底する。	B		
		③数学検定3級以上の合格者が2名以上を目指す。	C		
理科	基礎学力の向上	④定期考査毎に課題(ワークブックやプリント等)を出し、家庭学習の習慣化を図る。	A	B	・教員間での教材の共有を推進する。新教育課程2年目にむけて評価方法の確認。ICT
		①問題演習を積極的に取り入れ、科学的な見方・考え方の育成を図る。	B		
		②ふりかえりとして授業内容を文章としてまとめ、表現力の育成を図る。	B		
		③進路希望実現のために主体的に学べる体制を図る。	B		

科	「わかる授業」実現の工夫	①身近な事例の提示やＩＣＴの活用を図り、興味関心を喚起する。	B		T機器のさらなる活用。
		②実験・観察を適切かつ効果的に実施し「考えさせる」場面を取り入れ、さらなる探究活動の場を設けるとともに、レポート作成などの言語活動を取り入れる。	B		
保健体育科	保健体育の授業の充実	①運動の楽しさや喜びを十分に味わうことができる授業を展開する。	A	A	・年間を通してケガや事故なく、授業展開ができた。主体的に学べるような手立ての工夫が必要である。次年度も感染対策に注意を払いながら授業を行う。
		②授業や講習会を通じてAEDの正しい使い方を習得させる。	B		
		③ICT機器を活用しながら、技術の向上について自ら分析し考えさせる授業を展開する。	B		
	生徒の体力向上への意識の高揚 特色ある体育的学校行事の実践	①体力テストの結果を活用し、年間を通じて補強運動を行い体力を向上させる。	A		
		②運動量を確保するための体育教材や授業形態の工夫・改善をする。	A		
		①種目選択の成果を示す場として、スポーツフェスティバルを計画的に実施する。 ②集団の和を示す場として、集団行動を年間を通して実施する。	A B		
芸術科	知識及び技能の習得	①歴史や理論を背景に、基本的な技法を体得し、各自の作品を発表・鑑賞し合う。 ②授業におけるＩＣＴの活用を定着させ、表現や鑑賞する能力を養う。	B B	B	・ＩＣＴを効果的にまた積極的に活用し、知識や技能及び、思考力、判断力、表現力の向上に繋げる。
		①歴史的価値や芸術性の高いものを広く鑑賞し、作品を評価する能力を養う。 ②個人やグループでの探究活動を取り入れ、思考・判断・表現する力を育成する。	B B		
	主体的・協働的に幅広い活動の取り組み	①各自、教材教具の事前準備、遅刻や欠席をなくす基本的な態度や姿勢を養う。 ②生徒が主体的に授業に参加し、自ら表現技法を工夫できる能力を養う。 ③アクティブ・ラーニングの視点から、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善を研究する。	A A B		
英語科	自律的な学習態度の育成	①小テストを定期的の実施し、常時具体的な目標に向かって学習させる。 ②提出物等の評価を生徒に対して可視化し、各自の課題を把握させる。 ③アクティブラーニングを積極的に導入し、生徒自身が考える時間や話し合う時間を設ける。	B B B	B	・進学者課外や、成績向上課外の充実。 ・生徒自身の英語力が評価される行事（暗唱テスト、IBA等の実施）の導入。 ・スマホに代わり、電子辞書利用の推奨。 ・最適な教科書や副教材の選定。
	英語に関する興味の向上	①ALTとのティームティーチングやチャレンジプロジェクトの英語運用力講座の実施により、生徒の英語に関する興味を向上させる。 ②教科書外の教材を積極的に活用し、生徒の英語に関する興味を向上させる。 ③英語検定の受検を促進し、実用的な英語運用能力の育成を図る。	B B B		
	わかりやすい授業展開	①ＩＣＴを活用し視覚的・聴覚的にわかりやすい教材による授業展開で、基礎学力の向上を図る。 ②生徒の実態に即したワークシート・資料を活用する。 ③ネイティブスピーカーによる英語音声を活用し、自然な英語の発音を身に付けさせる。	B B B		
	自立に必要な基本的知識と技術の習得	①生徒が主体的に取り組めるよう、適切な教材を提供する。 ②反転学習などＩＣＴ教材の活用により、基礎的な内容の理解を深める。 ③施設・設備の安全管理に配慮し、実験・実習を実施する。	B B B		
	自らの生活の向上を図る力と、実践的な態度の育成	①ホームプロジェクト学習（探究活動）を通して、自らの生活課題の解決を図ることができるようにする。	A		
情報科	情報社会に参画する態度の育成	①ＩＣＴ機器を実際に使用し、活用することにより、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させる。 ②コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用するための基礎的な知識と技能を習得させる。 ③コンピュータや情報通信ネットワークを使った教員や生徒間での双方向コミュニケーションを活発に行うことにより、情報を生活に役立て主体的に活用しようとする	A A A	A	・ＩＣＴ機器の基本的な使い方を理解しているものの、処理に時間がかかっているため、情報を素早く記録したり、整理したりするために、タイピング能力や表計算ソフトの

		意欲と態度を育成する。			活用力の向上を図りたい。
商業科	基礎学力の向上を目指し 分かる授業を展開する	①商業を初めて学ぶ生徒に対して分かりやすい言葉・表現で授業を行い、苦手意識を持たせないよう工夫する。	A	A	・ICTスキルはかなり向上している。今後は生徒が所有するタブレット端末を活用する課題に取り組みせ、さらなるICTスキルの向上を目指したい。 ・インターンシップ以外のところでの常陸太田市との関係が密になってきている。来年度はインターンシップを行いたい。
		②自らが調べたり、家庭学習に取り組みやすいような宿題・課題の出し方を工夫する。	A		
		③定期的に課題の提出やノートを点検し家庭学習の定着を図る。	B		
	規範意識の向上	①あいさつの仕方など、授業を通して規範意識の向上を図る取り組みを行う。	A		
	地域の特色を活かした授業	①地元、常陸太田について研究し、商品開発に結びつく取り組みを行う。	A		
		②インターンシップや販売実習などで、地域企業との交流を図る。	A		
	ICT機器の活用	①キーボードの入力練習から始まり、ICT利用の検定試験受験に向けた取り組みを行い技術の向上を図る。	A	B	
		②課題解決型学習の最終目標をプレゼンテーションとしパワーポイントの利用技術の向上を図る。	B		
	福祉について体系的・系統的に理解し、関連する技術の習得	①福祉に関する知識を福祉の具体的事例と関連付けて分析し、考察する学習活動を行う。	A		
		②生徒の体験から考察、討論できるよう学習活動を工夫する。	B		
	福祉に関する課題の発見と、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力の養成	①福祉に関する具体的な事例を取り上げ、多面的・多角的に分析し、考察や討論を行う。その上で様々な事例について実践に結びつく課題解決のための学習活動を行う。	B		
		②介護職員初任者研修修了を目指し、理論と実践の繋がりある学習活動を展開する。	B		
福祉科	主体的かつ協働的に取り組む態度の育成	①地域を学びのフィールドとして、地域とつながりをもちながら信頼関係を構築し、協働して課題の解決に取り組む学習活動を行う。	B	B	
		②介護職員初任者研修修了を目指し自ら学ぶ意欲を高める学習活動を行う。	B		
	教育計画の立案と円滑な運営	①新教育課程2年目に向けて円滑な移行を図る。	B		
		②授業と学校行事の効果かつバランスの良い計画を立案する。	B		
	学習活動の充実	③欠席連絡用のスプレッドシートの活用の徹底を図るなどして、業務の効率化に取り組む。	A		
		①公開授業や相互の授業参観等を通して、授業の改善を図る。	B		
教務部	図書館の充実及び読書の推進	②ICT教育推進委員会と連携し、ICT機器の効果的な活用について、職員に情報提供を行う。	B	B	・タブレットの有効活用に向けた学校全体での取り組みの推進。 ・情報発信、広報活動の充実(H P 担当者を各学年に配置する)。 ・業務の分担を工夫し、先生方の仕事量の平坦化に努める。 ・生徒数の減少に伴うコース制のあり方について議論の場を設ける。 ・三観点の評価に関する情報共有。
		③ICT教材を活用した反転学習や確認テストの配信等を通して、生徒の学力向上を図ると共に、家庭学習の習慣化を図る。	C		
	効果的な広報活動	①HR・授業に関わる書籍を充実させ、利用促進を図るとともに自主的学習を支援する環境整備に努める。	B		
		②「朝の10分間読書」や授業での図書館の活用を通して、本に触れる機会を増やす。	B		
	未然防止の指導体制の確立	①ホームページの充実、更新に努め、最新の情報を発信する。	B		
		②中学校訪問や学校説明会の充実を図り、本校の魅力をさらに発信していく	B		
生徒	未然防止の指導体制の確立	①毎週の生徒指導部会で生徒情報等を共有し、問題行動の未然に防止につながるように情報の共有を図る。	B		・生活指導係 登校指導時のチェック部分を明確にし、重点的な指導が行える体制を整える。 ・交通安全係 自転車や原付の安全指導の
		②計画的に登校指導、校内外の巡視を実施し、挨拶の励行や身だしなみ指導の徹底を図ったり、生活指導を行う。	A		
		③スクールカウンセラーの積極的な活用を図り、さらに外部の機関とも連携しながら組織的に問題解決に取り組む。	A		

生徒指導部		④いじめ防止対策基本方針に基づいて、いじめの未然防止・早期発見・早期解消を図る。	B	B	徹底と自転車乗車時のヘルメット着用の努力義務などルール改定の周知 ・生徒支援係 スクールカウンセラーなどの専門家による教員研修の複数回実施	
	スピード感のある問題行動への対応	①問題行動が起きた際は、速やかに当該学年と協力しながら対応を検討する。	A			
	一体感のある指導体制の確立	①定期的に身だしなみ指導を実施し、全職員の共通理解のもとに高校生として好ましい頭髪や制服の身だしなみを確認・指導する。家庭とも連携や協力しながら改善を図る。	B			
		②生徒指導方針、特別指導の基本方針に沿った対応が行えるように努める。	A			
進路指導部	一人一人の進路希望先に 応じた支援	③毎週、各学年主任、生徒指導相談員と主任会を開き情報を共有したり、生徒指導部で議論されている内容を、全職員と共有できるようにデータ化し、閲覧できるようにすることで、共通理解のもと、指導できるように努める。	B	B	・学年と連携した連続性のあるキャリア教育の視点に立った進路指導の充実。 ・進学課外の充実および進学希望者向けの情報発信（スタディールームの活用）。 ・外部模試データ（進路希望調査含む）結果の活用法の検討。 ・キャリアパスポートの様式の検討と、具体的な活用場面の提示。	
		①進路希望調査の実施（年2回）に加え、個別面談等を通して生徒の進路目標の把握に努める。	B			
		②外部模試のデータを共有し、各教科と連携しながら基礎学力の定着に努める。	B			
		③各学校および企業、ハローワーク等と連携を図り、生徒個々の進路希望に応じた適切な指導に努める。	A			
		④大学入学共通テスト対策に加え、多様な入試制度に対応できるよう情報の収集を図る。	A			
		⑤教科と連携した進学課外の実施を通して、基礎学力の向上と、入学・入社試験に対応できる力の育成を図る。	B			
	職業観・勤労観の醸成	⑥各種資格取得やオープンキャンパス、一日看護体験等の参加を推奨する	A			
		①進路ガイダンスや進路講話等の進路探究活動を通して、生徒の進路や職業意識の醸成を図る。	A			
	広報及び情報提供の充実	②キャリアパスポートの活用を通して、生徒自身が自らの生き方や適性を捉える機会とする。	B			
		①「進路の手引き」や「進路だより」等を通じて、面接週間や保護者面談時などに適宜進路情報を提供する。	A			
	特別活動部	HR活動、学校行事、生徒会活動の活性化	②進路資料室や進路掲示コーナーの充実に努め、的確な進路情報を生徒に提供する。			A
①生徒と協力した学校行事及び生徒会活動を実施する。			B			
②キャリアパスポートの有効活用により、生徒が主体的・意欲的に取り組める体験的活動を充実させ、企画・立案する。			B			
部活動の定着率の向上と支援の継続		③学校行事及び生徒会活動の新校としての体制づくりに努める。	B			
		①太田西山高の部活動を、地域と連携した活力ある活動として展開する。	B			
保健厚生部	学習環境の美化・整備	②部活動の様子や活躍をホームページに掲載し、生徒たちの自己有用感を向上させる。	B			
		①整理整頓・清潔などへの啓発を行い、環境美化に対する生徒たちの意識の醸成を目指す。	A			
		②清掃指導を重点化し、生徒たちの快適な学習環境作りを目指す。	A			
	生徒の心身の健康の増進	③学校環境の安全点検を年3回行い、修理が必要な場所は修繕を行う。	B			
		①各種健診の実施と学校医の指導のもと、保護者との連携も図りながら、健康な生活を送る。	A			
	防災意識の高揚	②性の講演会（1年）等を実施し、生徒の心身の健全育成を図る。	A			
		①避難訓練等を実施し、具体的な行動を通して緊急時の対応に備える体制を作る。	A			
		②防災に関する講話などを通して生徒たちが主体的に当事者意識を持つよう啓蒙する。	A			
	A					・年3回（7・12・3月）予定されている「学校安全点検」の実施。 ・10月実施した「地域との連携による防災教室」は動画視聴だったが、来年度は実際に実施したい。 ・教員とSCとの情報交換の機会を図るための研修の企画

部	教育相談の充実	①教育相談の体制を充実させ、生徒の諸問題解決のために外部機関との連携を図る。	A		と実施を目指す。
	情報発信	①広報紙等を発行・配付し、保健厚生に関する情報の提供・共有を図る。	A		
渉 外 部	P T A活動の円滑な実施	①役員・委員会を円滑に実施し、早めの情報伝達・共有を図る。	A	A	・コロナ禍において文化祭には参加することができず、役員のなかでは不完全燃焼ぎみである。久しぶりに親子研修会を行うことができたので、来年度も工夫をして是非実施したい。
		②関係分掌や学年との連携を緊密にし、協力体制を密にしていく。	B		
		③文化祭において『太田西山P T A』らしい独自性を持った参加協力をする。	C		
	研修体制を強化する	①コロナ禍において滞っていた研修の機会を充実させる。	A		
部	本校教育の保護者の理解と協力の促進	①学校行事の記録に努め、P T A会報『太田西山』を通して、生徒の諸活動・P T A活動を知らせる。	A		
		②県北指導者研修会・生徒指導中央大会における活動報告発表を通して、広く活動を知らせる。	A		
第 一 学 年	高校生としての生活習慣の確立	①身だしなみ指導や登校指導を実施し、規範意識やマナーを向上させる。	B	B	・学年での継続的な指導を徹底することはできた。また、他者理解や協同の大切さを認識させることに欠けていた。基本的な生活習慣の確立と客観視した自分を意識できる人格形成を目指す。
		②普段の生活の中で、時間の遵守や挨拶の励行に努める。	B		
		③個別面談や生徒観察を通して生徒理解に努め、生徒情報を学年全体で共有し、保護者との連携を強化する。	A		
	主体的な学習習慣の確立と進路意識の涵養	①授業の予習復習を中心とした学習時間を把握し、I C Tの利活用により生徒自らが学習の管理と進捗状況を把握できるように促す。	B		
		②英語検定や漢字検定等の資格取得や課外の受講、模擬試験の受験を積極的に勧める。	C		
		③進路に関する適切な情報を提供し、ライフスキルⅠや総合的な探究の時間、進路ガイダンス等をとおして、自己を知り進路や職業について考えさせる。	B		
		④進路講話と進路探求のグループワークを通して、社会人に求められるものを把握し人格形成の基礎を培う。	B		
第 二 学 年	特別活動への積極的参加と地域との協働の推進	①学校行事や部活動に積極的に参加させ、集団への寄与や他者と共感する態度を養う。	B	B	・進路希望の実現と社会規範の習得を図る。 ・適切な情報共有による学年団内の理解と協力体制の確立。
		②地域学習やボランティア活動をとおして地域との協働を推進する。	B		
	基本的な生活習慣の確立及びきめ細やかな生徒指導	①身だしなみ指導や登校指導を通じ、基本的な生活習慣及び挨拶や言葉遣いなどの礼儀作法を身に付けさせ、規範意識やマナーを向上させる。	B		
		②整理・整頓、清掃を徹底させ、身のまわりの環境整備に努め、公共心の育成を図る。	B		
		③スピード感と一体感をもった指導体制の確立を図る。	C		
		④生徒及び家庭との情報交換を綿密に行い、問題行動の未然防止を図る。	B		
	主体的な学習習慣の確立及び進路意識の高揚	①スコラ手帳やI C Tの利活用により、生徒自らが学習の管理と進捗状況を把握できるように促す。	B		
		②学習意欲の向上を図り、基礎学力の定着に加え応用力を身に付けさせる。	B		
		③英語検定や漢字検定及び、商業・福祉保育コース関連の資格取得や、課外の受講、模擬試験の受験を積極的に勧める。	B		
		④進路に関する適切な情報を提供し、ライフスキルⅡや総合的な探究の時間、進路ガイダンスやインターンシップ等を通して、進路実現に向けての意識を向上させ、キャリア教育の充実を図る。	B		
	特別活動への積極的な参加と社会の形成に参画する力の育成	①学校行事や部活動に積極的に参加させることにより、集団の中の個人の役割をしっかりと認識し、他者と協力して問題解決する能力を育み、社会の形成に参画できる資質能力を養う。	A		
		②ボランティア活動や地域の人材との関わりをとおして地域との協働を推進する。	B		
第	キャリア教育の充実	①生徒が自らの将来を主体的に考えて決められるような進路指導を図る。	A		・進路関係の行事が多いなか、分業体制や協力体制の確立。また、学年での共通理解
		②各種進路ガイダンス等を利用した体系的な進路研修会の実施に努める。	A		
		③I C Tを活用し自ら進んで進路先を調べる能力を身につけさせる。	A		

三 学 年	きめ細やかな生徒指導と 基本的生活習慣の確立を 図る。	①生徒との面談等を通して、心の教育の充実を図る。	A	A	・情報共有を深める必要性。 ・課外学習や家庭学習の定着 を図る指導が必要。
		②時間を守る、あいさつの励行、身だしなみを整えるなど態度を身につけさせる。	A		
	組織的で効果的な学級運 営及び学年運営を行う。	①学年全体で必要業務の内容や課題・諸情報を共有し、協力と分業を進める。	B		
		②教員と生徒、保護者間の協力体制を意識し、最大限それに努める。	A		
	積極的に学習に取り組む 態度を養い、基礎学力の 向上を目指す。	① I C Tを活用し主体的に、探求活動を自主的に行う態度を養う。	A		
		②一般常識問題集を活用し、基礎学力の定着と向上を図る。	B		
		③課外学習や家庭学習の定着を図る。	B		

※評価規準 A：目標を大きく上回る達成度である。 B：目標を上回る達成度である。 C：ほぼ目標どおりの達成度である。
 D：目標を下回る達成度である。 E：目標を大きく下回る達成度である。